

「財政比較分析表」の見方

【各財政指標の意味】

指標の選定は
財政の「強さ」と「しなやかさ」
負債の「フロー」と「ストック」
「給与」と「職員数」の6つ。

① 財政力指数

税収力を示したもので普通交付税の不交付団体は1を超える

② 経常収支比率

経常的経費（人件費・扶助費・公債費）の経常一般財源収入に占める割合。家計の「エンゲル係数」のようなもので高いほどやりくりが厳しい（財政が硬直化している）ことを示す

③ 起債制限比率

毎年度の借金返済にあてる財政負担の割合で高いほど借金返済の負担が重いことを示す

④ 人口1人当たり地方債残高

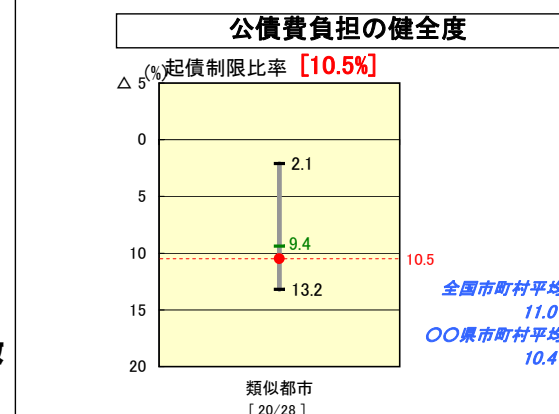
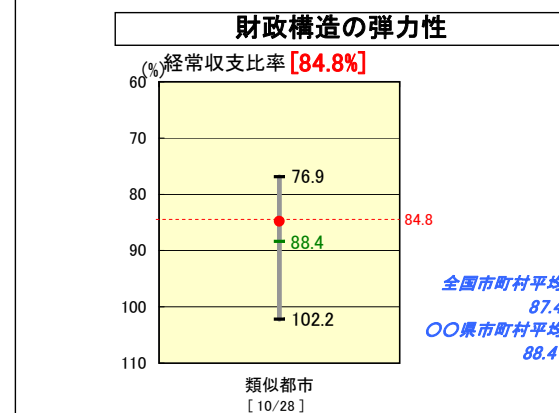
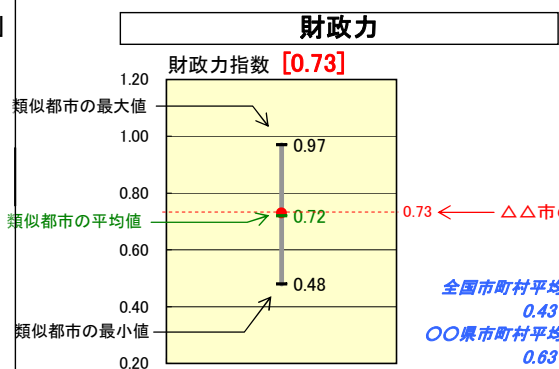
住民1人当たりが抱える借金の額

⑤ ラスパイレス指数

国家公務員行政職(一)の俸給を100とした場合の職員の給料の水準

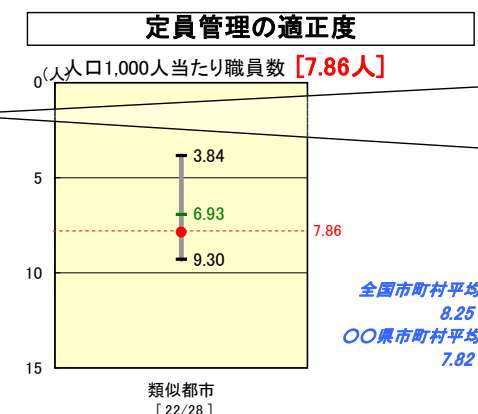
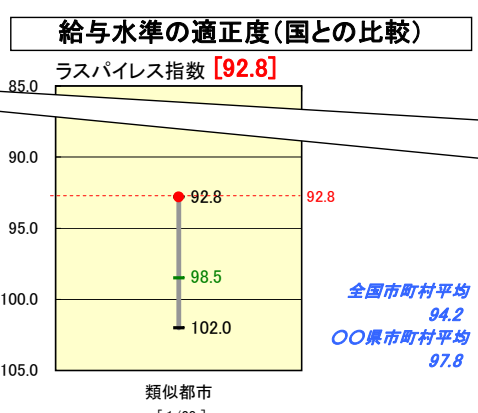
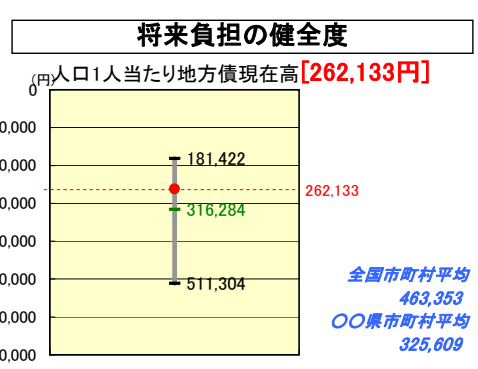
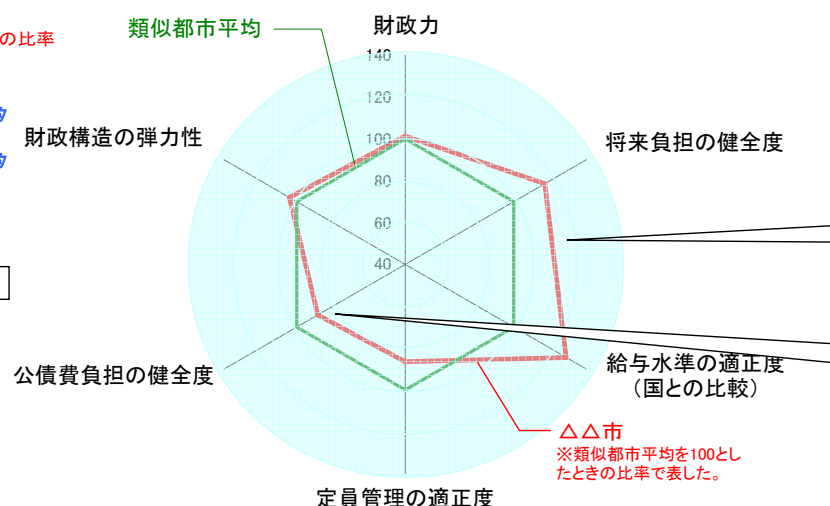
⑥ 人口1,000人当たり職員数

公営企業部門を除く職員の人口1,000人当たりの人数



〇〇県 △△市

人口	129,236 人(H16.3.31現在)
面積	63.19 km ²
歳入総額	31,223,867 千円
歳出総額	31,217,996 千円
実質収支	5,036 千円



分析欄

経常収支比率：類似都市平均を下回っているが、福祉関係経費の増加により比率は年々悪化している。人件費の削減など行財政改革への取組を通じて義務的経費の削減に努め、現在の水準を維持する。

起債制限比率：ごみ処理施設及びリサイクルセンター建設事業費に係る起債の償還等に伴い上昇し、類似都市平均をやや上回っている。大規模な事業を抑制し、適切な地方債管理を行うことにより、今後5年間で類似都市の水準まで低下させる。

ラスパイレス指数：職員の給与カット(管理職員5%、一般職員3%)の実施により、類似都市の中では最低水準にある。今後は各種手当の総点検を行うなど、より一層の給与の適正化に努める。

人口1000人当たり職員数：人口急増期の大量採用により、類似都市平均を上回っている。定員適正化計画に基づく定年退職者の不補充や民間委託の推進により、今後5年間で職員数を5%(50人)削減する。

【説明】

まず、「財政力指数」など6つの指標をとりあげ、人口・産業構造の似通った類似団体と比較できるようにグラフに図示。

これを指数化して真ん中のレーダーチャートに図示すると、各財政指標が良好なほどレーダーチャートの六角形が大きくなり、類似団体との比較がひと目で図示される。

例えば、公債費負担の健全度。起債制限比率が高いほど借金返済の負担が重い。この団体は起債制限比率が高いので、緑色の線より大きく内側にあるもの。

分析表のもう一つの特徴は、「団体による自己分析欄」を設け、自己分析とともに指標の改善に向けた具体的な取組を記述するようにしたところ。この団体は、起債制限比率が高い原因は過去のハコモノ建設にあると分析し、今後5年間で類似都市並に引き下げるとの目標を設定。

この分析表を全団体が公開。総務省のHPで団体間の比較が可能になる。